

1862
2008
3/15

府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人/平井賢治 編集人/西村浩美
(1部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

第44回府職労スポーツ祭典
ソフトボール大会
●とき 2008年5月10日(土)
●場所 職員グラウンド(舞洲)



2008年3月11日
府の財政と真の再建方策とは?

「なぜ財政赤字が生まれたのかを明らかにし、そこを改革しなければならない」

府財政問題学習会を開催

府職労版「府財政再建方策」づくりへ

府民のつどい 5月24日開催

3月11日、新別館北館多目的ホールで府財政問題学習会を開催しました。組合員、府民団体など100名を越える参加者がありました。

平井委員長が「橋下知事は『財政非常事態宣言』を発し、府の財政再建を至上命令に、府民のくらし・福祉・医療・教育をないがしろにした暫定予算案を組み、今府議会で審議されている府議会で審議を見守りながら、知事の言っている「赤字、破産、倒産状態」という中身が何なのか、そもそも府の財政はどうなっているのか学び、その再建

方策について共に考えていきたい」と学習会の趣旨を訴え、府職労の当面の方針として①職場から行財政点検運動を取り組む②出資法人や公の施設に働く人たちの協力・共同を進める③府民要求と府職員要求を統一的に捉え、5月24日に開催予定の「府民生活こそ危機―赤字財政からの転換を(仮称)にむけ、府財政再建方策案の提言を纏める、などの行動提起を行いました。

大阪教育大学の高山新教授から「大阪府財政を考えると題して講演をしていただきます。高山教授はこの間の大阪府の改革について、人口10万人当りの職員数が全国平均217人を下回る113人の問題、全国でもっとも厳しい人件費の引き下げがされた問題、その一方で大型プロジェクトが推進されている問題にふれ、なぜ財政赤字が生まれたのか。基本的なことを明らかにし、その部分を改革しない限り、一時しのぎの工作で、厳しい状況だけを府民に押し付ける、あるいは小さな政府、小さな大阪府だけをつくってやっていく形になっては府民の生活を守れない」と橋下知事の改革の問題点を指摘しました。

学習会のまとめで、渡部副委員長・行財政部長は「本日の学習会を契機として府職労の『府財政研究会』でも府財政の現状を把握し、税金の使い方をチェック・検討し、府民生活と府職員生活を守る真の財政再建方策案を提言したい。府の団体にも協力・共同を呼びかけていくが、全ての職場から府政に精通している組合員・職員の皆さんの声と府民の声を是非提言として府職労にお寄せください」と結びました。

府民のつどいを5月24日(土)午後1時30分からいきいきエッジングセンターで開催します。

一時金の格差をさらに拡大

10日、府当局から「勤約8万円(当局のシミュレーション)に拡大する場、場面で混乱と怒りの声が上がった」として、府職の友号外で提案がされました(3月10日付府職の友号外参照)。今回提案された内容は、「最上位」と「標準」の支給差約10万円を約17万円に、「第二上位」と「標準」の支給差約5万円を今この見直しは、「賃金制度が破綻した賃金リンクの撤回を！」



府職労春闘統一行動

このことから制度が破綻していることは明らかであり、全体の奉仕者である公務員、公務職場に「評価」を持ち込み、競争を煽ることがそもそも間違っている。白になりました。府職労は新人

ワーカーキング・プアも過労死もない社会を!

今春闘は「貧困と格差」の拡大の解消をめざす春闘です。「ワーカーキング・プア(働く貧困層)」は1千万人を超え、生活設計どころか今夜の宿代も払えず、ホームレスとなる人も増えています。また、増えています。また、正社員の4人に1人は健康を損なうほど長時間労働がされ、仕事に追われて過労死や自殺に陥る人もいます。ワーカーキング・プアも過労死も待遇の差別もなく、必要ありません。

遊歩道

野球好きの私は、毎年夏の高校予選を母校の応援に行っています。選抜がもう始まりますが、大阪で、公立が甲子園に出ることは容易ではありません。昨年高校野球雑誌に公開した記事が載っていましたので紹介します。

甲子園出場がない大阪の高校で、夏の府大会での通算勝利数が最も多いのが私の母校・城東工業です。過去60回参加して通算106勝でランキング15位。上位の高校は全て甲子園出場、60年の歴史こそ強さのゆえんといふことですが、無冠のチームがあるからこそ、激戦区・大阪が豪華なのかも。そんな母校も、甲子園に届きそうない時期があった。1952年秋の府大会準優勝で近畿大会進出。選抜候補として挙げられたが涙をのんだ。

この他、夏のベスト4、ベスト8が各4回。私のひとつ上の年には、春季大会でPLを破って優勝したことも。

高校野球の魅力は、一つ一つのプレーに集中し、どんな点差でもゲームセットまであきらめないことではないでしょうか。私は今年も球場で、自分は「どやねん!」と自問自答し、母校の甲子園出場を夢見んでいます。